総括討論

櫻井里穂（広島大学教育開発国際協力研究センター（CICE）准教授）

ありがとうございます。最後のセッションを始めたいと思います。総括討論ですが、フォーラムは自由な意見交換の場であり、セッションの結論を出すのが目的ではありません。基調講演者とパネリストに登壇いただいています。各自３分で、今日のフォーラムを振り返って重要と思われる点について話していただきたいと思います。

宇田川朋子（さいたま市立指扇小学校教諭・JOCV 現職教員特別参加制度経験者）

皆さんの発表の中で、教員の地位がどの国でも非常に低い傾向にあるとありました。なぜ学生は教員を志望しないのでしょうか。私は教員を志望しました。なぜなら仕事をしながら毎日感動があり、新しいことを学べるからです。それに、子どもたちは昨日できなかったことができるようになります。子どもたちは分かると、その瞬間、たいへん励みになって、感動のあまり泣きそうになります。体育の授業では、以前はできなかったことが、ある日突然できて、みんな歓声を上げます。そういうことがあるから、私は教えるのが好きです。教員の仕事が好きなもう一つの理由は、教えるだけでなく学べるからです。教員でいると、常に学びがあります。私は教えるのが好きです。その気持ちを子どもたちにも伝えたいと思います。教え子の一人でも二人でも、教員の仕事が楽しそうだと思ってくれたらと願っています。今日は皆さんとお話できて、本当に光栄で嬉しく思います。

リナ・ロウアネット・デ・ヌニェス（教育専門家・JICA グアテマラ・プロジェクト現地調整員）

テーマは教育です。皆さんは望んで教員になったかもしれません。生活費が必要だったので教員になったかもしれません。このフォーラムで、活発に話し合い、よい教員とは何か、よい教員が児童生徒の学習に何を提供できるかについて多くの討議を重ねました。今は非常に危機的な状況にあり、質の高い教育を実現するために、よい結果を出していく必要があります。中南米諸国では、教員の教育がまだ旧態依然としており不十分です。教員の質が向上しない限り、就学率は上がりません。教員は教える内容を十分に知らなければなりません。また「質」というのは非常に抽象的なので、より具体化する必要があります。グアテマラの私の経験から、教員養成は認定大学で行うべきです。認定大学であれば適切なレベルの教育を受けられるからです。しかし私の国ではそうなっていません。教員の免許認定についてもです。質を向上するには時間がかかります。若い教員を指導できる経験豊かな教員ももっと必要です。

ラモン・バカニ（SEAMEO INNOTECH センター長）

皆様にも考えていただきたいのですが、教育は科学的学問であると同時に芸術（わざ）でもあるということを提案したいと思います。多くの取組が科学的学問としての教育に向けられていることを私たちは知っています。今日いろいろ討議しましたが、その多くは科学的学問としての教育をいかに向上するかということでした。つまり教授法のスキル、ICT 教育、学習プロセスなどです。各国政府が行っている政策上の様々な介入を私たちは知っています。しかし芸術としての教育は、あまり知られていません。教育の科学は教員の頭にあり、教育の芸術は教員の心を見るべきですが、心については、あまり知られていないと思います。どうすれば教員が意欲を持ち続けられるか、どうすれば教員が教職に献身的に取り組み続ける気持ちになってもらえるか。何をすればそれが分かるのでしょうか。そうできなければ、教職はほとんどの教員にとって一生続ける仕事なので、おそらくは燃え尽きたり、精神的・情緒的なストレスで苦しんだりして、教える情熱

を見出せないでしょう。政府だけでなく、地域の人々もこのことを認識する必要があります。フィリピンでは「私の先生、私のヒーロー」という全国的なキャンペーンを実施しています。教員は教え子の人生を本当に変えることができると、私たちは認識しているからです。仕事で成功している人たちが「先生に影響を受けました」と言うのを聞くと、教員は私たちの人生に大きな影響を与えるということを再認識します。それでフィリピンではこのスローガンをマスメディアでも使っています。全国教員月間に教員の身分証明を見せると割引をする民間企業があったり、映画館が教員に割引を提供したりしています。教員の努力に感謝するために、教員の意欲を高め刺激する方法をしっかりと見なければなりません。そうしなければ教員は私たちの期待に添うようにはなりません。教員はきつい仕事です。

窪田眞二（筑波大学人間系教育学域教授）

最後の質問に組合の問題がありました。組合が授業研究に反対しているとのことでした。私はそれについて具体的な証拠がありませんが、あなたが言われることについて考えてみたいと思います。今朝取り上げられた児童生徒の評価に関する質問を思い出しました。日教組も学校評価に反対しています。反対の理由はよく似ており、授業研究の反対理由とまったく同じかもしれません。児童生徒の発達や、学校の質の向上のために、教員は努力をするなら、自分たちが状況を変えることができると分かっています。教員は学校評価や授業研究について特別に何かをしているとは感じていません。学校は、勤務時間中の自発的な行為に関する調査を独自にしています。もし児童生徒の発達に貢献することなら、教員は何でも必要なことを喜んでします。それがやりがいのあることだと感じられるようにする必要があります。私はそう思いますし、そう感じています。教員の質を向上するためには財源が必要です。これは何度も強調されてきているので、私はそれ以上言うことはありません。私は日本の経験をお話ししました。様々な問題を一つずつ解決することにより、教員の質を改善でき、教職課程の志望の改善につながるかもしれません。これらの国々の教育レベルが上がれば、地域社会との協力や教員のメンタルヘルスなど、日本と同じ問題に直面するでしょう。「万人のための教育」の結果、これらの問題が起きます。全員が教育を受けるようになると、このような新しい問題が生まれます。「同じ轍を踏む」という日本のことわざがあります。同じ轍を踏まないでください。日本で教員が直面している課題は、皆様の将来を示すものかもしれません。

ジンガイ・ムトゥンブカ（アフリカ教育開発連合議長）

アフリカではサファリ旅行についてよく話をします。教育が旅行だとしましょう。サファリで自然動物保護区に行くと、珍しい植物があり、よいガイドが必要です。教育がサファリ旅行なら、教員はガイドです。この旅が成功するには、最高のガイドが必要です。何をするにしても、長旅であっても短い旅であっても、起伏の多い土地でも、なだらかな土地でも、最高のガイドが必要です。ですから私がまず今日の重要点だと思うのは、国がどのような開発のレベルにあるにしろ、教員から最大のものを引き出すために、最善の政策を立案し実施する必要があるということです。今日の経験で私が特筆したい二つ目の点は、このフォーラムは東西南北の経験をシェアする素晴しい機会だということです。主催者や企画をされた方々を賞賛したいと思います。ぜひ今後も継続してください。

エデン・アドゥブラ（ユネスコ教員・高等教育局 EFA 教員タスクフォース事務局長）

ありがとうございます。彼女は皆様に言いませんでしたが、私に、私が印象に残ったことを話すのではなく、今日の討議のまとめをして欲しいと言いました。フランスの文化では、他のことは全部忘れても、真髄は残ると言います。皆様の様々な討議については皆様の胸に留めていただいて、今日の討議の全体を私なり

に次の５点にまとめてみました。

１．教員養成や継続的な教員研修は、日本でも、今日発表された地域でも重要です。これは不可欠です。私たちは教える内容の知識や教授法的な能力やノウハウについて話し合いました。私たちはまた学歴や資格についても議論しました。教員養成を修士等のレベルに引き上げることは、教員の今後の仕事にとってよいことでしょうか。どのような学歴レベルを設定するべきかは、一律には決められません。日本と他の国の実情は異なります。レソトの小学校教員全員が修士号を持つことを期待するのは非現実的です。教員養成は教育実習が重要です。教員は理論を学ぶだけでなく、実際に教え、学校で起きていることを経験することで、教員という仕事の旅を始める準備ができます。現職研修はだれが提供するのでしょうか。教員の知識を高めるために、誰が教員の自己研修の機会を提供するのでしょうか。

２．二つ目の大きな話題は、教員の意欲と労働条件でした。教員の地位は低く、教える以外にも負担があり、同僚からプレッシャーも受けます。新しい教科も学ばねばならず、同じ教科を教える上でも改善していかなくてはなりません。教員の成績評価もあります。教員の評価は誰が行うか、誰が教員の意欲を高めるのか。教員自身がそのプロセスに参加するべきだということは、誰も異論がありません。学校の「リーダー」や「管理職」には特別の役割があります。私は二つの言葉を使いましたが、「管理」はいわゆる基盤的な管理のことで、校長のような構造的な「リーダー」の指導力も必要です。教員や校長だけに限るべきではありませんが、校長は様々な役割を果たさなければなりません。よい教育の表彰ですが、優れた教育実践をどのように表彰するか、いくつかの例が示されましたが、よい教育実践が表彰されたときには、それが活用され普及されるようにするべきです。

3. 第三のポイントは教育の価値でした。価値は知識やスキルに限らないと言うことが繰り返し指摘されました。学校の環境も重要です。授業で使われる言語、ジェンダーによる不公正、移民の子どもたち、これらの子どもたちへの配慮も重要です。また、教員への敬意も必要です。

4. 第四の話題は教員のモニタリングと評価の改革についてでした。日本では高齢化が進んでいるため、教員の年齢構成もモニターし、大量退職に備えなければなりません。そのためモニタリングを実施し、結果を記録することが必要です。教員研修の計画は教育の質に影響を与えると言われています。モニタリングは重要です。何がうまくいき、何がうまくいかないかを明らかにして、政策措置をとらなければなりません。説明責任については、教育や教員養成は非常に大きなコストがかかるので、多くの人々が教員に注目しています。私たちは説明責任を果たさなければなりません。教員もそれに参加し、期待に添うよう責任を果たさなければなりません。

5. 最後に教育の世界的な人口について討議しました。これは言わなくてもよいように思われるかもしれませんが、パネルの構成が非常によく、今日の日本とアフリカ諸国というまったく異なる国の教育について話をしていても、最初に窪田教授がよく似た問題があると指摘され、日本が数年前に経験したことが基調講演に呼応していました。同じ轍を踏まず、よい教訓を学んで状況に合わせて採り入れるべきです。なぜなら状況が違っても、採り入れて役に立つかもしれないものもあるからです。また、EFA のような世界的枠組みで、うまくいくものを探すのを支援することです。国際社会はベンチマークに合意しました。すべての国々が同じペースで動いているわけではありませんが、これらの枠組みをモニターすることで、各国は自分たちの位置を知り、ギャップを埋めるよりよい計画を立てることができます。

私はこれ以外に今日討議されたことを忘れてしまいましたが、このフォーラムに参加させていただいたことを感謝します。これからも話し合いが継続されることを、そして次回の JEF を楽しみにしています。

櫻井里穂（広島大学教育開発国際協力研究センター（CICE）准教授）

自立的教育開発に向けた国際協力を目指す第 10 回 JEF は、「良質な基礎教育拡充に向けて－教員をめぐる課題－」を取り上げました。質と教員について討議してきましたが、今日話し合ったこのテーマは日本だけでなく他の国々にも大きく関わるテーマだったと思います。また今日のテーマは、「教える行為は二つの意味がある」と言ったフィリップ・ジャクソンの研究と大いに関係します。一つは知識を伝達する「模倣的様式」、もう一つは学習者の態度や生き方に影響を与える「変容的様式」です。今日は教育の質を中心に討議しましたが、つまり模倣的様式から変革的様式に変わらなければならない時期にきているということです。2015 年を目標に、日本は教育支援をさらに継続しなければなりません。この目標のために教育の向上を重視することが非常に重要です。これらの問題を解決するために、私たち全員が協力しなければなりません。最後になりましたが、本フォーラムの目的は一つの結論を出すことではなく、教育や今後の活動について示唆に富む意見交換をする場を提供することです。この目的を果たせたことを願っています。ご参加下さいました皆様、どうもありがとうございました。